

2 事業の実施内容

事業区分	対象面積	実施内容
①被害技術防止講習会等の開催	45.0ha	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季園芸大学研修会（令和元年度：1回） ・営農座談会（令和元年度：1回） ・栽培講習会（令和元年度：1回）
②既存ハウスへの補強等		
ア 台風対策	0.01ha	・1地区（小松市、令和2年度：0.01ヘクタール）で防風ネットの設置を実施。
イ 大雪対策	0.82ha	<ul style="list-style-type: none"> ・1地区（宝達志水町、令和元年度：0.1ヘクタール）で補強を実施。 ・1地区（小松市、令和2年度：0.72ヘクタール）で補強を実施。

3 自己評価

評価項目	評価	理由
事業効果		<p>すべての対策を計画どおり完了することができ、目標は達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季園芸大学の研修会（参加総数80名）や営農座談会、栽培講習会での雪害対策マニュアルの配布により、全県の農業者へ被害防止技術を普及することができた。 ・老朽化で補強が必要で今後も使うパイプハウスの補強を実施し、災害被害軽減に備えることができた。 ・すべての要対策面積で保守管理を中心とした防災体制を整えることができた。 ・令和2年12月から令和3年2月にかけての大雪と暴風雪では、本事業で補強したハウスに被害が生じなかった。
事業計画の妥当性	1	事業計画どおり完了できた。
適正な事業の執行	1	県、市町が連携して事業が執行できた。

1 「事業の実施による効果」の欄には、取組の総評及び効果を記入する。

2 「事業計画の妥当性」の欄には、事業計画が妥当な場合は1を、それ以外の場合には0を記入する。また、その理由について記入する。

3 「適正な事業の執行」の欄には、事業が適切に実行された場合は1を、それ以外の場合には0を記入する。また、その理由について記入する。